卒業論文要旨

21191157

豊泉ゼミ

渡辺夏帆

本論文では、現代日本社会における結婚制度の必要性とその課題について考察する。日本では近年、結婚をしない人々の割合が増加しており、結婚はもはや人生における必須ステージではなくなりつつある。本論では、まず現状を分析し、未婚者が結婚を避ける理由や結婚したい理由を明らかにし、結婚が「選択肢」として扱われる社会の変化を示した。その背景には、女性の就業率の上昇やライフスタイルの多様化がある。

次に、結婚制度が抱える課題として、選択的夫婦別姓制度や共同親権制度の導入に関する議論を取り上げた。選択的夫婦別姓制度は、改氏による負担やキャリアへの影響を軽減し、結婚へのハードルを下げる可能性があるが、家族の一体感や伝統を重視する意見が反対理由として挙げられる。また、2024年に改正された共同親権制度は、離婚後も両親が子供と関わる権利を認める一方で、親間のトラブルや家庭裁判所の判断における課題も指摘される。

さらに、法律婚と事実婚の違いに注目し、それぞれのメリットとデメリットを整理。事実婚は柔軟性がある一方で、税制や医療、遺産相続などの点で法律婚と比較して不利な立場に置かれることが多い。

本論文では、結婚制度が現代社会のニーズに合致していないことを指摘し、より柔軟で多様性を尊重した制度への移行が必要であると結論づけた。結婚という枠組みを見直し、個々の選択を尊重する仕組みを整えることで、より多くの人々が幸福な人生を送るための基盤を構築できるだろう。